
君と僕の歩く道

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と僕の歩く道

【Nコード】

N6178Z

【作者名】

澪

【あらすじ】

恋がしたくて、たまらない高校生、月原美織。

新しい出会いが欲しくて胸を膨らませていた。

そして、美織が恋した先輩、

滝流星。

出会い（前書き）

はじめまして！

漣です

処女作ですが、よろしく願います！

出会い

くプロローグく

どうして、こんなにも辛いんだろう。

好きな気持ちは君には届かないのかな？

私は、幸せになれないのかな？

誰か…

教えてよ。

第一章、出会い

桜の舞う坂道。

私は、ゆっくりと慣れない通学路を登る。

月原美織。 15歳。

高校生になる。

恋がしたくて、新しい出会いを楽しみにしてる。

恋なんて、くだらないと思ってた。

だけど、中学の頃二年間も好きだった人がいた。

初恋だった。

臆病な私は、想いを伝えられないまま、
卒業してしまった。

だから、

高校生になったら、素敵な恋がしたい。

ずっとそう思ってた。

そして、ついに入学式。

「桜ヶ丘高校」

私が通う学校。

私が恋を見つける学校。

出会は突然

ガラガラ…

先生が教室に入ってきた。

私は、1年C組。

同じ中学のこはいない。

みんな、それぞれ希望する学校が綺麗に別れたらしい。

中には県外の学校に入学する人もいた。

高校から寮生活なんて、考えられなかったから、

私は、一番近い学校を選んだ。

近いといっても、3駅先の学校だ。

ぼーっと先生の自己紹介を聞いていたら、

隣の女子に話しかけられた。

「名前は？」

人見知りがちな私は、小さい声で、

「月原：美織」

とだけ、答えた。

すると彼女は、

「私、霧島春！春って呼んでね！」

春：

そんな名前にピッタリな可愛らしいこだった。

「よろしくお願いします。美織でいいです」

まだ、心を開けてないせいか、敬語になってしまつ。

「タメでいいから！美織、よろしく！」

春が笑うと、春の周りはピンク色に明るくなる。

すると先生が、

「じゃあ、先輩たちに学校案内してもらうので、廊下に並ぶように。」

そう言い残して、先生は教室を出た。

正直、先輩たちに学校案内してもらうなんて、高校生にもなってダサいと思った。

春も同じ気持ちみたいだ。

だるいとか、ありえないとか、色々いつてる。

私たちは、静かに廊下に並ぶと先輩たちがやってきた。

一人ずつ、ペアがつくみたいだ。

私の前にきたのは…

「俺、滝流星。よろしく」

第一印象

「俺、滝流星。よろしく」

滝…流星…先輩。

第一印象は、爽やかな好青年。

周りの男の先輩はみな、派手な色の髪の毛をしている。

滝先輩は、普通の黒髪。

第一印象は、私の中では重要だ。

面食いとかではない。

人見知りがちな為、見た目で判断するしかなしのだ。

人見知りがなおれば、見た目なんか関係ないけど…

とりあえず簡単に自己紹介をした。

「月原美織です。よろしくお願いします。」

「おう。じゃ、行くか。」

そう言われて先輩の後を駆けあしで追う私。

そんな、

私たちを見て、同級生たちは羨ましがる。

滝先輩は、入学したばかりの一年にもモテるみたいだ。

「ここが職員室。で、隣が給湯室。」

すらすらと滝先輩は案内していく。

「月原？」

滝先輩に呼ばれ、我に返る。

「なっ…何でしょうか!？」

びっくりして、つい変な口調になってしまっ。

「ははっ。月原、面白いな。」

滝先輩が笑った。

先輩は笑うとエクボができるんだ。

先輩を知れて、嬉しかった。

先輩の教室を案内された。

「俺、一番前でさあ…寝れねえんだよな」

そんな先輩の愚痴も嬉しかった。

先輩の一言で私まで笑顔になった。

自分の気持ちに気付くまで、時間はかからなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6178z/>

君と僕の歩く道

2011年12月20日22時55分発行